

**残りの者**  
**シャーアル**

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(112号)  
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号  
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp  
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一  
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子



## 信仰: 「安全」と「安心」

- 今年も「熱中症」が心配される真夏が巡ってきました。5月中に30度を超える気温に驚かされましたが、今年の夏はさらに暑さが増すのではないかと思います。
- 寒い冬を過ごす私たち東北の人は、雪に閉ざされ、身を刺す寒い季節には、心の中で早く暑い夏が来ないかと待ち焦がれますが、いざその暑さが来るとそれに対して不平をいう始末です。
- 豊洲・築地の問題や東日本で発生した福島原子力発電所の問題は、私たちが「安全とは何か」「安心とは何か」の論議を改めて問われました。
- どんな災害が起こっても絶対安全と言われ、國の旗振りで進められてきた原子力発電の安全神話は、今回の大震災により原子炉のメルトダウン被害の事実にも崩れました。
- 豊洲・築地問題も福島放射線問題も科学的に安全だと宣言されても、人々の「安心」への疑いは容易く拭い去られるものではありません。
- 箴言1/33に「しかし、わたしに聞き従う者は安全に住まい、わざわざを恐れることもなく、安らかである。(whoever listens to me will dwell secure and will be at ease, without dread of disaster.)」とある。場所・物・状況などが危害にたいして備えがあることであり、心に不安や心配が無い状況が安心であることを意味しています。
- 安全は、人間の努力によってある程度は構築できるものであろうが、どんなに堅固な城に住み、多くの兵士に守られているとしても安心とは限りません。
- 聖書には、「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。」と書かれている。
- これは、真の安心は心に平安があることを意味し、全知全能の義なる神との関係において、和解によって正しい神との関係が築かれ、恐れから自由にされている心の状態です。
- 多くの困難の中でも、クリスチャンが心を乱されないのは、この万軍の主が、どんな状況にあろうともこの私と共にいてくださるという神の約束を堅く信じているからです。
- このインマヌエル(神が私たちと共におられる)の神との出会いを通して、何と多くの人が困難を耐え忍び、打ち勝ち、希望が与えられて、自分の人生を送ったことだろうか。
- 神の恵みと愛を体験した先達が、命をかけて、この良き知らせ(福音)を携えて、東洋の端にあるこの日本に来てくれた事によって、この私もその恵みに与ることが出来た。次は、私たちがその働きのために召されているです。

### 先月の多くの恵みから

- ① 6/4の礼拝は Holy Hope Project の竹下 力師からメッセージの奉仕を、静姉から奏楽と特別賛美のご奉仕を頂きました。詩篇23篇を通して「共にいてくださる神」をより深く学ばせて頂き、感謝しました。
- ② 6/3に、震災後に支援と宣教の奉仕をされてきた鈴木手以師が支援活動をされていた淳姉とバプテスト仙台北キリスト教会において佐藤 雅師の司式で結婚式を挙げられました。先生の主にあるお働きと家庭に神の祝福を祈りながら参列させて頂きました。おめでとうございます！
- ③ 開所以来、会員としてこの群を支えてこられ、お母さんを最期まで介護され天に送られた佐々木百合子姉が、今回、仙台で新しい生活を始めることになりました。仙台

- の新しいスタートと良き教会に導かれるようにお祈り下さい。また、前川晶子さんもご主人の転勤のために塩竈に転居されます。10月の出産まで健康が守られますように。
- ④ 6/5に、石巻オアシス教会主催のJ-Symphonieの湊復興住宅でのコンサートに応援に行きました。その午後、帰京する前に北方さんご夫妻と長さんがわざわざ教会に訪問下さり、楽しいお交わりの時を過ごさせて頂きました。
  - ⑤ 健康が優れず、市立病院での検査期間でしたが、神の憐れみによって6/17の馬っ子山早天祈祷会に本当に久しぶりに出席できました。皆さんの祈りの励ましに感謝しました。
  - ⑥ 6/18午後到大震災支援の中でお交わりが出来た新館の女性が結婚に導かれた男性と一緒に訪問下さり、相談とお交わりと祈りの時を持つことが出来ました。
  - ⑦ 石巻市民の救いと各教会の働きのために奉仕するIMNが6/15に、来年の「3.11宮城三陸東日本大震災追悼記念会」の準備会が6/21持たれ、来年の実施のために相談と祈りが出来ました。
  - ⑧ 6/23に来石し、仮設住宅で奉仕された上原権治兄が6/26に石巻オアシス教会での証しとコンサート、午後にはICCC(石巻中央キリスト教会)でのコンサート奉仕をして下さいました。
  - ⑨ 6/28に、祈り支えて頂いている千葉の剣持兄が訪問下さり、主にあるお交わりと励ましをいただきました。
  - ⑩ 6月も皆さんの祈りと捧げ物によって群の活動が出来、心から感謝いたします。

- 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。
- ① 自宅で療養中の大平姉の戦いのために祈り支えて下さい。
  - ② 長野県佐久市で奉仕されている濱 道子師の回復のために。
  - ③ 7/16に東松島市コミュニティ・センターで開催されるGong Minと豪華メンバーによる震災地支援コンサートが祝されるように。

群の定期集会	
・礼拝(毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会(毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time(第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸(第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)	


**信仰を詠う**

**7月 愛し合いたい**

あらが  
諄いを 静める知恵の及ばずに  
星空に立つ テモテ三・・降りくる

柔らかな 舌を持たざる身の愚か  
在主追いやる 自我を逃れず

平穩の 救ひを受ける道知るを  
ひと日の終わり 鎮もり祈る



**阿部 八重子**  
騒然とする世の中、身近に起きる言い争い、いざれも自分の主張を通そうとするのが原因、でも通さなければならぬ事態もあって難しい。そんな中でも何とか愛し合っていきたいです。



# 5月末から6月末までに来訪された先生・兄弟および祈りの家の教会活動の様子



5/30 神保家族が再訪、女川の絆フレンドを訪問 5/27 カリヒュニオンC牧師/兄弟来訪 6/竹下 力 師/静姉礼拝奉仕 6/3 鈴木手以師/淳姉の結婚式に参列



6/5 J-Symphonie 湊復興住宅で奉仕 6/15 The Rockでの石巻ミニストリー、ネットワーク6月月例会とChad師の励まし 6/17 晴天のすがすがしい朝、馬っ子山早天祈禱会



6/22 77歳の誕生日に、多くの方からのお祝いと励まし、そしてDean師・黄家瑞師・平田美保姉の訪問に感謝 米沢の兄弟から旬のサクランボとDean師からUSAからのお土産

## アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

10年目の歩みの中で

### 「このような困難な地であるからこそ」

キリスト教会「石巻祈りの家」代表 阿部 一

今回の大震災後に数回教会を訪問し、仮設集会所で被災者を励ます集会をして下さったハワイにある教会の姉妹が、牧師ご夫妻と兄弟と一緒に、5月末に再度訪問して下さいました。そして、私たちの支援活動の内容と私自身の救いの証しを要請された。支援への感謝を述べ、神と多くの教会・クリスチャン・支援団体・一般の方々からいただいた恵みと私の救いについて語った。

語り終わった後に、牧師先生が「どうして、日本人はこんなにも聖書の神さまを信じないんでしょうね。」と問われた。今回の大震災の際に、多数のボランティアを送り、沢山の支援物資や献金を捧げて下さった外国のクリスチャンには、これは大きな疑問であるようだ。

確かに、津波に襲われ破壊された家屋の清掃の際に、悪臭のするヘドロが体にこびりつくのも苦にせず、炎天下でも黙々とそれを除去するクリスチャン・ボランティアの姿は、被災者に大きな感銘を与えた。そして、被災者はその働きに感謝しながらも、これらのボランティアがこの被災地まで来るための飛行機などの旅費、宿泊費、食費などすべてが自分持ちか、教会の献金によるものであることを知った時、さらに「信じられない」と驚きの声を発した。

この小さな教会も、この地区の物資の支援拠点として用いて頂いた。その際に倉庫を貸して下さいた道路向かいの方が、「近所の人達が、どうしてそこまで支援してくれるのかと驚いている」と伝えてくれた。

昨年春まで毎月必要な生活消耗品支援を続けた仮設の方々も、感謝の言葉と共に「このような大震災の際に、わが身を支援する立場に置いた時を考えると、私たち日本人はここまで支援出来ないだろうというのが率直な意見だ」と語られた。私たちは、多くの被災地外の日本人が、外国人と同じようにボランティアをするために仕事を休み、自費で支援に来られた方が沢山いることを知っているし、被災者の必要のために物資やお金を送って下さった方々も教えきれないくらいおられた。

しかし、支援を受けた被災者が、世界で起こっている様々な災害による被災者に、「今度は私たちが・・・」と立ち上がるかと



言えば、私は少し疑問に思っている。

百科事典で解説によれば、「ボランティア」という言葉は、フランス語、更に遡ってラテン語の「自由意志」を意味するボランタスが語源だとされる。自発性または自主性、善意性、無償性、先駆性ならびに自己犠牲を伴うことがその行為の基本的特性と記している。

日本人は、歴史的に見ても、「個」の確立よりも、家族や村などの集団に帰属することが重視され、またそこから離脱して生き抜くことは難しい社会であった。そこでは、自発性とか自主性は抑圧され、自由意志が尊重されることもなかった。

また、財産もその人のステータスの尺度であり、自分を守る大きな砦であったから、それを無償で与えたり、何の繋がりもない他人のために自らが無償で犠牲となって労するという価値観は生まれなかったのではないかと思う。

現代の日本人を見ても、多くは信仰を持って献げるのは、何らかの御利益を求めめるためであることは明かである。

その点、キリスト教は全く逆である。信仰は神と個である自分との契約である。キリストの十字架は償いしない者への無償の犠牲であり、その計り知れない贖い、すなわち神の無償の愛によって全き自由な者とされたことをクリスチャンは信じて、その神と共にこの世を生きる。財産も、聖書が言うように「私たちは裸で生まれ、裸で死ぬ」。決してあの世には持って行けないし、いくら金を積んでも天国には入れないことを知っている。言うなれば、財産は神からの預かり物である。それ故に、賢く神と人のために用いることが勧められている。また、

愛するに償いしないこのような自分がキリストの十字架の死という身代わり、神の一方的な憐れみによって愛されていると信じて生きている。「このような者が神に愛されている」という神の愛を経験しているから、自発的な愛の行為に導かれる。愛されている者だけが他人を愛することが出来るのである。これが、被災した日本人への簡単な回答となると思う。

日本人は今までの自分の生き方を変えるのが嫌だから、自分という人間に真っ直ぐに向き合わない。そして、この世の習慣に流されて生きる人が多い。いわゆる経済的に豊かな国の日本が、不思議な国といわれる所以である。日本ではなかなかキリスト教が受け入れられないから宣教師や牧師先生の苦労は大変である。しかし、このような困難な地だからこそ、神は先生方をこの地に召されているなどと私は信じる。キリシタン禁制になる前に50～60万人の信者がいたと言われる。真っ直ぐに聖書の神に向き合い、聖書の教えを受け入れ、神と共に生きていた先達が多くいたのだ。これを覚え、忠実に歩みたいものである。